

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスほーぷふる		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		令和7年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		令和7年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者様自身の思いを表出できるような関わりを重視し、利用者様や保護者様だけではなく学校や相談支援員、祖父母様等、スタッフを含め利用者様に関わる全ての方が「ほーぷふるで良かった」と安心できる場所であり続けたいと思っております	個別支援計画の立案に際し、保護者様の意向を踏まえ利用児童本人へも「何を目標とし、何からどう始めていくか？」を説明し児童自身の思いを個別支援計画へ反映するようにしております	利用者様や保護者様の不安や疑問等に対し可能な限り速やかに対応し、常に安心して過ごせるよう努めております
2	一般的に障害福祉では「構造化が基本」とされていますが、弊社では構造化に頼らず、言葉やジェスチャーを活用し本人やスタッフの思いを「伝える」「相手の言葉を理解する」を目標に支援に取り組んでおります	「大人が手伝ってくれるのが当たり前」ではなく、子どもたち自身が「今、誰に何を手伝ってほしいのか？」を伝えられるよう、目の前にあるわからないことや苦手な事、困った事を乗り越えるためにどうしたら良いのか？を考え選択し言葉（ジェスチャー）で伝える力を引き出せるよう支援しております	周りの情報だけではなく、目の前にいる子どもたちの持つ力を信じ「できないから仕方ない」ではなく「できる方法を子どもたちと一緒に考え、一緒にチャレンジする」をモットーに、日々子どもたちと話し合いながら一日一つでも子どもたちに有意義な「できた！」を積み重ねて行きたいと考えております
3	子どもたちの表面的な課題行動だけではなく、なぜ課題となる行動をとってしまうのか？姿勢や手指の使い方、集中できない要素の有無等、身体的な要因の有無から掘り下げ課題行動となる原因を改善するよう支援しております	子どもたちの学習や遊びの場面において、安全確保だけではなく、体の動かし方や人との関わり方、コミュニケーションにおける言葉の選び方、相手の言葉の受け取り方等安全確保以外に子どもたちの本質を観察し、スタッフや保護者様と情報を共有するよう留意しております	知り得た情報をもとに子どもたちと話し合い、改善すべき点や、改善するとともに楽しく過ごせるようになる等、常に子どもたち自身が改善に向け意識できるような言葉かけを心掛けて行きたいと思っております

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様の「プライバシーの保護」や「安全性の確保」の意向により、事業所を開放し地域の方々と積極的に関わることが難しい	社会的に子どもたちを狙った犯罪や、心無い大人の言動によって傷ついたり子どもたちや保護者様もみえる	事業所を開放することは難しいが、近隣の公園へ出かけ地域の子と一緒遊び、事業所以外の子と交流しながら子どもたちが安心して過ごせる場を作りたいと思っております
2	弊社には、保護者様自身も様々な課題を抱えながら生活している方も多く、必然的に園との関わりが必要となるが、現状として園へ協力、理解が得られない場合も多い	・教育（園）と療育（福祉）が繋がっていない ・公的機関の窓口となる方や、相談支援専門員、園の先生方が「保育所等訪問支援」や「療育事業所（障害児福祉）」に関する制度について「知らない」という方が多く協力が得られにくい	現時点で園との話し合いは保護者様からの申し出によって実施されることが多いが、保護者様自身が課題を抱えているケースも多く、可能な限り相談支援員や弊社児発管が同席し保護者様の不安を緩和し子どもたちが安心して園で過ごせるよう対応しております
3	弊社事業所は、土曜日、日曜日が定休となっており外出や地域イベントへの参加が難しい	社会的に「働き方改革」が問われるようになり、弊社事業所スタッフも同様に自身や家族との時間を大切にしてほしい	保護者様や子どもたち自身が一番困っている園や日常生活を改善することにより、ご家族で地域のイベントや外出に出かけられるよう支援していきたい